



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第34号 (H24. 2. 17)

宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 前田 哲司

しつ じつ ごう けん
質 実 剛 健

「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」



平成23年度都城市教育委員会

精励賞受賞 榮福和希くん



2月14日(火)に都城市教育委員会主催による精励賞の表彰式がありました。本校からは榮福和希くんが選ばれ受賞しました。受賞理由は、「全校理事として、行事をはじめさまざまな場面でリーダーシップを発揮する。合唱コンクールの指揮者として活躍する。自主練習で駅伝大会区間賞を獲得する。また都泉祭で立派なピアノ演奏を行った。授業中、家庭での努力で優秀な成績を収めている。」などあり、附属中学生の見本となっています。これからも全校理事としてぐいぐいみんなを引っ張ってください。



性教育講話 宮崎県看護大学教授 長鶴 美佐子 先生



2月16日(木)に、宮崎県看護大学教授「長鶴美佐子」先生をお招きし、自分自身のからだや心を理解することで、自他を尊重し、大切にす姿勢や態度を育てることを目的に「性教育講話」を開催しました。附属中1・2年生全員を対象に実施しました。

＜生徒の感想＞

○私は、今回の性教育講話を通して、改めて命の大切さや思春期について考えることができました。今の私は反抗期まっただ中で、親を困らせてばかりいるので、スライドショーの中にあった「あなたは周りを笑顔にした」という言葉は、今の私にもそれができるのか、自分を

見つめ直すきっかけにもなりました。これから、たくさん悩んでたくさん自分探しをしていきたいです。

○私は今回、性教育の講話と聞いて保健の授業とどう違うのだろう…なんて考えていました。しかし、実際にお話を聞いて保健の授業という簡単なものではないことを知りました。性の話ばかりでなく、命の誕生のお話も聞いて、私もこんな風に思われながら母と父から生まれてきたのだなあと思いました。

○～私は今自分は思春期なんだなあと思いました。友だちと悩みを相談し合ったりすることでイライラしないようにしたいです。親に反抗することがあっても落ち着いたら謝るようにしたいです。

○～今日の講話で一番心に残っているのは「皆、自分の誕生を喜んでくれた」ということです。だから一度きりの人生を精一杯生きようと思います。

○～性はきちんと理解しないといけないことがわかりました。これからは性について、きちんと理解し尊重できる人になろうと思います。

○～私には妹と弟がいます。2人の出産に私も立ち会ったのですが、弟のときは助産師の方が「〇〇ちゃん、男の子だよ」と言って私にだっこさせてくださり幼心にもなんだかうれしかった思い出があります。ビデオを見て、私もこんなふうに思われて生まれてきたんだということが分かり、帰ったら親といろいろな話をしたいと思いました。

○～今はドラマなどを見ても、いろいろな性の情報などが流れたりしています。このような世間なのできちんと性の知識を身につけ、相手のことを理解しながら生活していきたいです。



「立志式」を終えての感想～

- 私は立志式で、こらからの誓いを立てたり、親への手紙を書いてみたりして、改めて自分を見つめ直せたかなと思います。東国原英夫前知事さんが「学問は、何歳でも学べる」と言っていました。私は、たくさん資格を取りたいと思っています。そして、仕事に生かしていきたいです。そのためには、今から勉強や、体力をつけて将来のためにがんばりたいと思います。
- ～一つは、学問は大切だということです。東国原さんの話の中で、何をするにも学問は必要だという言葉が響きました。東国原さんは小学校の頃に夢を立てて、それに向かって学問に励み、夢を実現したそうです。これを聞いたとき、改めて学問の大切さを実感しました。二つは、家族に感謝しなければならないということです。立志式で私たちは誓いを立てましたが、この誓いを立てるためには家族の支えが必要です。そこで、この立志式を機会に家族にちゃんと感謝しなければと思いました。これから自分の夢を実現するためにがんばっていききたいです。
- ～私の将来の夢は、医師になりたいので、もっとたくさん学問という武器を身に付けたいと思います。～親からの手紙は短かったけれど、心がこもっていて嬉しかった。今までしてもらってあたり前だったが、これからは少しでも自立していきたいと思います。
- ～講演の中で一番印象に残ったのは「勉強しておけば将来何でもできる。勉強をしていないと自分が将来やりたいものになれない。今、君たちが一番すべきことは勉強だ。」という言葉です。～しっかりと勉強して、母の願いを実現するためにも自分のためにも頑張りたいと思います。
- ～いろんなことにもチャレンジしていきたいと思いました。親からの手紙に「やればできる、やらなければならない」という言葉がありました。やればやるだけ可能性が広がっていくので、これからは失敗を恐れずにいろんなことにチャレンジしていきたいです。そして、毎日一步一步前に進んでいこうと思います。
- ～母は適当に書くと私はずっと思っていたのですが、その手紙はとっても短いけれど、涙を流しそうになりました。普段はよくけんかをするけれど、私のことをずっと想っていてくれて、当たり前のことのようにうれしかったです。親の為にも自分の為にも将来努力し続けて自慢のできる娘になりたいと手紙を読んで思いました。
- ～「努力をすれば何でもできる」と私に思わせてくれる講演でした。最後の方には少し政治の話もしましたが、最近の政治は、総理は1年ごとに変わり、今回の地震の復興より、総理を下ろそうとする運動の方が盛んです。日本は外国からの信頼もないし100年に1度の大不況に、人の悪口しか言っていないイメージはありません。是非ともこのダメ政治、ダメ日本を変えてほしいです。
- ～式が始まる直前まで、いったいどんな式なんだろうと緊張しましたが、あっという間に終わり、びっくりしました。しかし、いろいろなことを体験できて良かったです。
- ～親の手紙を読むと、私がどれだけ大切に育てられてきたかがよくわかるので、これから親孝行するためにも学問に努めていこうと思います。
- ～小6の頃から夢は変わっていませんが、夢に対してそろそろ行動しようと思う機会になりました。東国原前知事の努力の凄さが分かる話は、自分にもっと努力をしようと考えさせました。また、学問に関する考えを増やすことができました。
- ～立志式の後半の部では、自分の目標を大きな声で親の前で発表したことと親からの手紙をもらったことで自分の決めた目標を達成するという意識が上がったので良かったです。
- ～今から、私が生きていく中で、心に残しておきたい言葉がたくさん書いてありました。例えば、「どんなことがあっても夢をあきらめるな」ということです。私は、この手紙を読んで、この手紙のような人になろうと思いました。
- 先日あった立志式では大人になったということを実感するための式だと思いますが、実際、自分には自覚がないと感じます。私は立志式ではこれからのとても大きな目標を考えただけだったので、もっと具体的に先のことについて考える必要があると思いました。
- ～第一に私はもう15歳になるんだなと感じました。特に中学生になってからのこの2年はあっという間だったと思います。
- ～もう一つは親への感謝です。家でよく「ありがとう」と言いますが、改めて手紙として書いて感謝の気持ちを伝えられたのではないかと思います。
- ～日頃の父からは考えられないような手紙をもらって、こんなやさしい人に育てられているんだなと改めて思いました。少しでも手伝いをして親に楽をさせてあげたいです。

